

I. はじめに

テーマ:「現在のIFLA とのかかわり」⇒⇒「J L AのIFLA 関連および国際交流関連
事業概況」

2. 第72回IFLA ソウル大会報告 (『図書館雑誌』10月号原稿参照)

3. IFLA ソウル大会に向けてのJ L Aの取り組み

- ・『図書館雑誌』コラム掲載
- ・J L A国際交流事業委員会ホームページ
- ・日韓関係者相互訪問
- ・その他 中国訪日団, 発表者支援, プロフェッショナル・ツアー, オランダ図書館協会国際部長講演会, 出版物, J L A資料保存委員会主催IFLA プレ・カンファレンス報告会,

4. IFLA に関する日本の状況

- ・IFLA 会員状況: 7協会・9機関, 10セクション委員, 3コア活動委員, 4コレスポ
ディング・メンバー, 1IFLA ジャーナル編集委員
- ・日本からのIFLA 大会参加者数推移

5. J L Aの国際交流事業概況

- ・国際交流事業委員会構成: 大学教員4名, 都立図書館1名, 専門図書館1名, 学校図
書館1名, 国立国会図書館1名, オブサーバー1名(前委員長), 担当職員1名(10名)
- ・国際交流プログラム 1) 日中交流(1996年～)
2) 日韓交流(1998年～)
3) アリゾナ・ホーナー・フェローシップ(2000年～)

6. 今後の課題と展望

- ・財政基盤の確保, 人材確保, IFLA 分科会委員等とJ L Aとの関係明確化
- ・J L A国際交流事業拡大充実に伴う委員会業務の増大
- ・J L A担当スタッフ整備補強(専任スタッフ)の必要性
- ・国内各種グループとのネットワーク構築

第72回IFLAソウル大会(World Library and Information Congress 2006)盛会で終了

標記大会が8月20日～24日、韓国ソウルで「図書館：知識情報社会のための力強いエンジン (Libraries:Dynamic Engines for the Knowledge and Information Society)」をテーマに開催された。大会登録者が約3700名、展示その他関係者を合わせると総勢5000名というこれまでにない規模であった。1986年のIFLA東京大会以来20年ぶりの極東アジアにおける開催とあって、韓国図書館協会から日本図書館協会に対して様々な形で参加協力の要請があった。それを受け、最終的に日本からは200余名の参加者と、プレカンファレンス・各種分科会・ポスターセッション等で40名近い発表者があった。ちなみに米国からの参加者はほぼ例年なみの300名程度とのことである。展示会場では国立国会図書館、国立情報学研究所、日本図書館協会が一角を占めた他、科学技術振興機構、雄松堂も各々ブースを構え、日本の図書館・情報・出版分野におけるパワーを世界の図書館人にアピールした。開会式ではノムヒョン大統領は当日都合で欠席されたが、大統領夫人、シンキナム大会組織委員長、アレックス・バーンIFLA会長らが歓迎の辞を述べた後、キムデジュン(金大中)前大統領が基調講演を行った。氏は図書館の歴史的・社会的役割を述べた後、相互理解を通して世界平和が実現されることを指摘し、知識情報機関である図書館の重要性を改めて強調した。今大会は市内の巨大な会議展示センターを主会場とし、主なプログラムが同センター内で実施されたことは、参加者にとって移動の手間が省け好都合であった。また各種図書館見学も充実していた。「文化の夕べ」や各種レセプションで我々の前に繰り広げられた韓国伝統音楽・舞踊・演劇等々は圧巻であった。最高レベルの完成度と円熟味に裏打ちされた、美と技の極みと言えよう。登録時に参加者全員に渡されるIFLAバッグには、「韓国の図書館：過去・現在・未来」と題する、ソウル大会国内組織委員会編集による美しい装丁の図書が入っていた。さらには、開会式でオーケストラ・ソロ・コーラスにより披露され参加者にどよめきさえ与えた、IFLAソウル大会テーマソング“Guiding Our Dreams”(我らの夢を導いて)をはじめとする新旧韓国音楽9曲が収録されたCDも入っていた。本大会が予算規模・措置も含めて、文字通り国を挙げての一大イベントであったことを参加者に強く印象づけたと言えよう。閉会式では2007年ダーバン大会(南アフリカ)主催者によるアピールの後、2008年ケベック(カナダ)に続く2009年開催地がミラノ(イタリア)に決定したと発表されると、会場は喜びと興奮の渦に巻き込まれた。大会の詳細については本誌12月号のIFLA特集で報告の予定である。IFLAソウル大会の成功を、関係者・参加者はじめ様々な形でご協力下さった全ての方々と共に喜びたい。

(宮部頼子 JLA国際交流事業委員会委員長)